

研究課題：小児がんのリハビリテーション

入院中の運動機能および ADL の経過と理学療法介入の検討

1. 研究の目的

国内では年間 2000～2500 人の子どもが小児がんと診断され、10000 人に 1 人の割合となっています。主な小児がんは、白血病、脳腫瘍、リンパ腫、神経芽腫、胚細胞腫瘍・性腺腫瘍などで、その中で白血病は 38.4%と約 4 割を占めています。小児血液がんのリハビリテーションの対象の多くは廃用症候群であり、治療後の活動、復学、社会参加、精神運動発達の妨げにならない様にするための予防が重要とされています。しかし、先行研究においては治療前からの介入は少なく、ADL（日常生活動作：以下、ADL）に支障をきたしてから介入が多く、介入頻度はほぼ毎日であるものが多い現状があります。

当院ではがん患者に対し入院直後にリハビリテーションが全例に処方されています。廃用症候群を予防するためには全例に頻回な介入が望まれますが、現状は行っておりません。実際の理学療法介入において、ADL が維持できておりご家族協力のもと自主練習を中心に自己管理を行うことが可能な症例がいる一方、様々な合併症や移植片対宿主病等で活動量が低下し、廃用症候群が進行する症例も存在しています。

以上のことから、本研究では小児白血病患者のリハビリテーションの適切かつ必要な介入頻度や時期について検討することを目的とします。対象は小学 1 年生～高校 3 年生までの当院血液腫瘍科で入院治療を実施した白血病患者で、ダウン症や ADHD（注意欠如・多動症）などの精神発達障害のある患者および介入前から有害事象がある場合（骨折等）は除外とします。先行研究より評価として有効であるとされている項目（握力、膝伸展筋力、6 分間歩行試験）を中心に診療録から抽出し、対象患者の入院通中の運動機能や ADL の経過を分析します。

2. 研究の方法

2022 年 9 月から 2024 年 2 月までに当センター血液腫瘍科に入院した白血病（急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病）と診断された方のうち、小学 1 年生～高校 3 年生までの方が対象となります。握力、膝伸展筋力、バランス検査結果などリハビリの際に得た情報や身長体重等の必要な情報を診療録より取得し、各項目との関連を分析します。

得られた個人情報 は匿名化した状態で本研究を実施いたします。

3. 研究期間

2024年3月から2029年3月まで（倫理委員会承認後～5年間を予定）

4. 研究に用いる資料・情報の種類

入院～退院までの治療経過と理学療法経過と評価（筋力やバランス評価など）をカルテより抽出し、研究します。画像を含め、個人情報は一切含みません。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：保健発達部 技師 渡邊聖奈

実施分担者：保健発達部 副技師長 白子 淑江

保健発達部 副技師長 碓井 愛

保健発達部 主任 金澤 郁恵

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2024年8月31日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）